

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F114310104847	設置等組織名	人間福祉学部 デジタル地域社会学科
大学名	田園調布学園大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	神奈川県	事業計画名	デジタル地域社会学科の新設

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	1-① 令和6年10月 学内における設置準備委員会及び準備室を組織し、事業開始 1-② 令和6年11月 地域におけるデジタル活用の実態調査（現地調査及びアンケート調査） 1-③ 令和6年12月 システム関連企業との協議開始 1-④ 令和7年 2月 KIS認証を受けた川崎市内企業との協議開始 1-⑤ 令和7年 3月 設置計画概要のとりまとめ 1-⑥ 令和7年 7月 地域におけるデジタル活用の実態調査（現地調査及びアンケート調査） 1-⑦ 令和7年10月 高校生等へのニーズ調査 1-⑧ 令和7年12月 教育課程、教員組織、入試方法の検討 1-⑨ 令和7年12月 施設設備導入計画の策定 1-⑩ 令和8年 4月 協力企業、協力機関との連携協定 1-⑪ 令和8年 7月 地域におけるデジタル活用事例調査（現地調査） 1-⑫ 令和8年10月 高校生等へのニーズ調査 1-⑬ 令和8年10月 デジタル地域社会学科情報発信	1-① 令和6年10月 学内における設置準備委員会及び準備室を組織し、事業開始 1-② 令和6年11月 地域におけるデジタル活用の実態調査（現地調査及びアンケート調査） 1-③ 令和7年 2月 システム関連企業との協議開始 1-④ 令和7年 2月 KIS認証を受けた川崎市内企業との協議開始 1-⑤ 令和7年 3月 設置計画概要のとりまとめ	R6年度自己評価	【2】計画を十分には実施していない。 学内における設置準備室体制の創設から間もなかったため、養成する人材像や3つのポリシー、教育課程などの検討に注力し、それらを優先した結果、令和 6 年 1 2 月から実施予定であったシステム関連企業との協議開始時期が遅れることとなった。 ○年度自己評価
				リストから選択してください。
フェーズ2 前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和 9 年 3 月 人間福祉学部デジタル地域社会学科設置認可申請予定			
フェーズ1 後倒し	1-⑭ 令和9年4月 学内における設置準備委員会及び準備室の事業継続 1-⑮ 令和9年4月 協力企業機関等との連携活動 1-⑯ 令和9年5月 デジタル地域社会学科情報発信		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	2-① 令和9年4月 デジタル地域社会学科設置のための専任教員新築 2-② 令和10年2月 デジタル地域社会学科設置のための設備整備		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和 1 0 年 4 月 人間福祉学部デジタル地域社会学科開設予定（入学定員50人、工学関係）			
フェーズ2 後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	3-①令和10年4月 デジタル地域社会学科運営事務室設置 3-②令和10年4月 デジタル地域社会学科活動内容の情報発信 3-③令和10年6月 デジタル地域社会学科協定先との打ち合わせ 3-④令和10年9月 セミナー等を開催 3-⑤令和11年6月 デジタル地域社会学科協定先との打ち合わせ 3-⑥令和11年8、9月 シンポジウム等を開催 3-⑦令和12年2月 福祉分野等のDX化のニーズ調査 3-⑧令和12年7月 デジタル地域社会学科協定先との打ち合わせ 3-⑨令和12年8、9月 シンポジウム等を開催 3-⑩令和13年10月 デジタル地域社会学科協力企業等との連携協議 3-⑪令和13年 8、9月 シンポジウム等を開催 3-⑫令和14年2月 デジタル地域社会学科活動報告書作成		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和 9 年 3 月 人間福祉学部社会福祉学科定員減（30人）の届出予定（入学定員80人）（社会学・社会福祉学関係）			

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	田園調布学園大学
-------------	-------	-----	----------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	ほぼ例年通りの金額を獲得できたが、目標額にはとどかなかったため、引き続き募金募集活動に注力していく。				
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☐ チェック			
計画通りに進んでいる	☐ チェック					
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	他大学やIT関連企業、地域社会・福祉関連施設との連携や人材育成に関する連携についての検討はされているが、社会経験を有する社会人への経済的支援やLMSなどを利用した遠隔事業を取り入れた教育・学修環境の整備についての検討については、カリキュラムの完成とフィージビリティ調査の結果を待って取り組む予定である。				
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☐ チェック			
計画通りに進んでいる	☐ チェック					
⑬	選定された大学は、公算要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。					
	<table><tr><td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。					
	<table><tr><td>認定を受けておらず申請する意向もない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	田園調布学園大学
-------------	-------	-----	----------

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
かわさき基準（KIS）に登録されている企業ならびにアイデア・フロント株式会社、社団法人セーフティネットリングージ（みまもりあいプロジェクト）、その他フェーズ1で相談したIT関連企業等から技術者を講師として招き、それぞれの専門性に関連する内容の授業科目の指導を行ってもらう予定である。 また、自治体（神奈川県、川崎市、横浜市等）と連携し、共生社会づくりに必要な知識・技能を獲得するための授業科目を配置する。3年次以降は、卒業研究として学生の地元または本学が協定を結ぶモデル地域において、地域共生社会推進のためのデジタル活用を推し進めるPBL型の授業科目を複数開講し、フィールドワークを中心とした実践的な教育を行う。	KIS登録企業との打合わせは川崎市の仲介にて開始しているが、協議は始まったばかりである。アイデア・フロント株式会社、社団法人セーフティネットリングージなどの協力関係は確立済みだが、まだ、モデルカリキュラムが完成していないため、カリキュラム評価までは至っていない。 共生社会づくりに必要な知識・技能を獲得するための授業科目はプロトタイプカリキュラムにて設置済みである。一方、現状では180科目を超えているため、精査する必要がある。 神奈川県とは、既に共生社会推進に関する連携協定や協働成果を上げてきている。川崎市も本学科のめざすべき目標やあるべき姿に関する協議を行い、協働・連携が期待される市内の地域DX、福祉DX企業を紹介して頂いた。 モデル地域やインターンシップ先として期待される川崎市内のDX関連企業との打ち合わせを開始した。PBL型の科目はプロトタイプカリキュラムにて設置済みである。	現段階ではカリキュラムが確定していないため、関連企業等の方々からの学科設置の意義や人材育成目標に対する理解と賛同は得られているが、具体的に担当して頂く科目が定まっていない。 神奈川県とは共生社会推進に関する協定や共同事業の推進を行っているが、共生社会推進をデジタル面で考えるための打ち合わせが行えていないため、早期に協議の機会を得るようにする。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☐ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☐ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☐ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.周辺地域の高等学校等への説明会実施、入学選抜における特待生枠の設置及び、デジタル活用能力を重視した総合型入試による入学者選抜や共通テストの『情報Ⅰ』および『公民』を活用した入学者選抜を実施する予定である。また、フェーズ1の期間において、デジタル活用能力評価型の総合型入試や『情報Ⅰ』および『公民』等を入試科目とした場合の受験生の持つイメージなどについて調査を行う。 d.社会人にとって学びやすい環境（経済支援、環境支援）を用意し、福祉現場や地域社会からのリカレント教育のニーズ調査を実施する。	令和7年度後半に実施する、企業・高校教員を対象としたフィージビリティ調査の準備を進めてきた。現在、調査の具体的な設計が整い、実施に向けた最終調整を行っている。 また、社会人ニーズについても、フィージビリティ調査で把握できるよう、調査項目や対象を精査し、これにより、社会人の受け入れに関する基礎データの収集が可能となる見込みである。 さらに、フィージビリティ調査の中で、総合型選抜入試や『情報Ⅰ』および『公民』などを入試科目とした場合の受験生（高校生）のイメージ調査の準備を進めている。	プロトタイプカリキュラムの作成やフィージビリティ調査が完了していないため、アドミッションポリシーが未定となっている。今年度中に調査を終え、多様な入試形態・入試科目の設定をめざす。 社会人ニーズについても、フィージビリティ調査である程度把握できると期待されるため、調査結果を基にリカレント教育体制整備を行う。 その他、地方在住学生、留学生および障害のある受験生への対応について検討が行われていないため、フィージビリティ調査と併せて検討を行う。

大学名	田園調布学園大学
-----	----------

1.本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	田園調布学園大学
-----	----------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	300	300																	
		入学者数	人	247	300																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	300	300																	
		入学者数(B)	人	247	300																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.82	1.00																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	1240	1200																	
		編入学定員	人	40	20																	
		在籍者数(D)	人	1061	1068																	
		編入学者数	人	6	12																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.86	0.89																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定－6年	選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定													
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	64,578	71,321	73,028	65,633	58,217	57,282													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	67,177
本事業による助成金の額(F)	千円	557,500
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	81,115

特記事項

人間福祉学部 社会福祉学科及び共生社会学科の令和7年度以降の「編入学定員0人」とは、若干名を意味している。
